紹　介

インターペット ～人とペットの豊かな暮らしフェア～ 開催される

平成27年4月2日から5日までの4日間，東京ビッグサイトにおいて，「ALL JAPAN PET EXPO in TOKYO」が開催された．これは，従来別々に開催されていた3つのイベントである，「FCIジャパンインターナショナルドッグショー（㈳ジャパンケネルクラブ主催）」，「ジャパンペットフェア（㈳日本ペット用品工業会主催）」及び「インターペット（㈳ペットフード協会及びメサゴ・メッセフランクフルト㈱主催）」が，同日，同会場にて“ALL JAPAN PET EXPO”の冠のもと一堂に会して開催されたもので，今回が初の試みであった．

本会は，このうちの1つである「インターペット ～人とペットの豊かな暮らしフェア～」に参加した．このイベントはペット関連国際商業見本市で，15の国と地域から233の出展があり，会期中4日間で22,039人の来場者があった．昨年に引き続き2回目の参加となる今回は，主催者からの依頼を受け，従来のブース出展に加えて，本会が主催するステージ企画及びアリーナにおけるキッズ獣医師体験を実施した．以下に概要を報告する．

開催初日となる4月2日，「ALL JAPAN PET EXPO in TOKYO」の開場式では，本会藏内勇夫会長が来賓として招かれ，関係者多数が見守る中テープカットを行った．続いてインターペットの会場で開催されたビジネスフォーラムのステージ企画では，「ペット産業の新たなビジネスの潮流～人とペットの健康寿命増進はペットとの共生から～」と題し，藏内会長が横倉義武㈳日本医師会会長，片岡春樹ジャペル㈱代表取締役社長，古藤田邦彰ニューマーケティング協会代表とともに出演し，越村義雄㈳ペットフード協会会長の進行のもとシンポジウムが行われた．この中で藏内会長からは，「人とコンパニオン・アニマルの現状については，家庭動物は人と同じ環境で生活し，大切な家族の一員になっていますが，飼育者が高齢になったり病気になったりした際，その動物をどのように健康的に飼育し，散歩させたり動物病院に通院させるのか，といった点が議論されています．しかし，動物の飼育は生活に潤いや安らぎを与え，動物介在療法のように福祉や健康増進面でのメリットや学校飼育動物による教育効果へのメリットが大きいことから，地域全体で支援することが重要です．ペットの健康と飼い主との関係について，日本医師会の横倉会長はOne World, One Healthの実現を，医師と獣医師とで構築することが大切で，アニマル・セラピーの効果は医療現場においても期待できると述べられました．在宅看護の場面での動物の健康管理は，獣医師だけでなく在宅看護を行う飼い主との連携，動物看護師によるクライアント・エデュケーションやプライマリーケアが重要ですし，また，動物が罹患した時だけではなく，普段からホームドクターと連携し，気軽に相談することも大切です．一方，近年の飼育動物の減少傾向は，少子高齢社会と結びつけて語られることが多いのですが，豊かな社会とは動物と人が共存できることにあり，そのことを私たちはもっと広く国民に呼びかけていく必要があります．ペット飼育の阻害要因については，集合住宅での飼育条件の緩和などに大幅な改善がみられる一方で，例えば動物と一緒に旅行をする際には多くの制約があることなど，まだ課題があります．ブリーダーやペットショップの減少傾向が，動物の供給数の減少に起因していることも含め，関係者が連携を図り，改善する努力が必要です．また，高齢者のペット飼育に関し，飼い主の死亡後の保険金の信託制度等を整備し，高齢者も自らの将来を気にすることなく安心して動物を飼育できる環境を確保し，人と動物が一緒に生活できる施設の実現等が期待されます．昨年，福岡県で実施した犬の飼養実態調査の結果，95％の飼い主が，犬を終生飼育して手放す可能性がないことがわかりました．誰もが動物を飼育できる環境を整備し，飼い主は動物の生活に責任を持ち，そのことを地域で支える社会の出現を期待します．」と発言された．

開催3日目の4月4日には，本会主催による4つのステージ企画が行われた．「獣医師の仕事を知っていますか？」では，農場どないすんねん研究会の協力により，クイズやライブなどを交えた楽しいステージが展開され，ペットの診療だけではない，獣医師の幅広い職域が紹介された．「マイクロチップを知っていますか？」では，地方獣医師会，ペットショップ及びマイクロチップ販売会社それぞれの立場から専門家が出演し，マイクロチップの普及推進に向けたシンポジウムを行った．「獣医療と動物福祉・愛護の制度を考えましょう」では，自由民主党ペット関連産業人材育成議員連盟事務総長の片山さつき参議院議員による基調講演の後，東海林克彦㈳日本愛玩動物協会会長を座長に迎えてシンポジウムが行われ，藏内会長，北村直人顧問及び下薗惠子㈳全国動物教育協会会長がパネリストとして出演した．藏内会長からは，「チーム獣医療提供体制の整備には，獣医師の自己研鑽はもとより，獣医療を補助する動物看護師の役割が重要であり，動物看護師の知識と技術の高位平準化，認定資格の普及とそれを管理する動物看護師統一認定機構の整備，動物看護師の処遇改善や職域としての整備充実が不可欠です．診療現場の医師と看護師の比は1：5ですが，診療獣医師と動物看護師の比は1：1.4で，しかも医師をとりまく医療現場は，看護師のほか，保健師，助産師，診療放射線技師，理学療法士等，20職種以上が

国家資格等の公的資格で構成されていますが，獣医療には民間が認定する動物看護師があるだけです．獣医療の質向上を図るためには，チーム獣医療体制を整備し，動物看護師の活躍が期待されます.」との発言があった．最後には農林水産大臣政務官の中川郁子衆議院議員から激励の挨拶をいただいた.「ドッグダンス」では，㈠社家庭動物愛護協会の協力のもと，愛犬と飼育者による素晴らしいダンスが披露された．

同日，インターペットアリーナでは日本獣医学生協会の協力により，子供たちを対象とした「キッズ獣医師体験」を開催し，75 組 92 名の参加者で賑わった．

図 1　ALL JAPAN PET EXPO in TOKYO 開場式でテープカットする藏内会長

図 2 「ペット産業の新たなビジネスの潮流 ～人とペットの健康寿命増進はペットとの共生から～」ステージの様子

図 3 「ペット産業の新たなビジネスの潮流 ～人とペットの健康寿命増進はペットとの共生から～」で来場者に語りかける藏内会長（左は横倉日本医師会会長）

図 4 「ペット産業の新たなビジネスの潮流 ～人とペットの健康寿命増進はペットとの共生から～」を熱心に聴く満員の来場者

図 5 「獣医師の仕事を知っていますか？」で仕事内容を説明する播谷恵子（ちば NOSAI 連），小山祐介（千葉県中央家畜保健衛生所），村田　望（福岡県南筑後保健福祉環境事務所）の各氏

図 6 「獣医師の仕事を知っていますか？」でのライブパフォーマンスにシンガーソングライターのミルク 082（おやじ）さんや NOSAI マスコットキャラクター「ノーサイ君」も出演した

図７ 「マイクロチップを知っていますか？」ステージに出演する小林元郎(㈳東京都獣医師会副会長)，小椋 功(㈱コジマ取締役動物病院事業部本部長)，福島正晴(共立製薬㈱ペットケア&ニュービジネス課長)，山口千津子(㈳日本動物福祉協会) の各氏

図８ 「獣医療と動物福祉・愛護の制度を考えましょう」ステージで基調講演する参議院議員 片山さつき自民党ペット関連産業人材育成議員連盟事務総長

図９ 「獣医療と動物福祉・愛護の制度を考えましょう」ステージで激励の挨拶をする衆議院議員 中川郁子農林水産大臣政務官

図10 「獣医療と動物福祉・愛護の制度を考えましょう」ステージで来場者に語りかける藏内会長

図11 「獣医療と動物福祉・愛護の制度を考えましょう」ステージで来場者に語りかける北村顧問

図12 「ドッグダンス」ステージで愛犬とダンスを披露する出演者

図13 「キッズ獣医師体験」で獣医学生と一緒に犬の心音を聴く児童

図14 広い見本市会場の一角に設けられた「キッズ獣医師体験」コーナーは，子供たちの笑顔と輝く瞳にあふれた